

## 第27回 温泉関係功労者被表彰者(50音順)

| 氏名                 | 年齢 | 役職等   | 功績概要  |
|--------------------|----|---|---|
| イノクマ シゲユ<br>猪熊 茂子  | 66 | 日本赤十字社医療センター<br>アレルギー・リウマチ科 リウ<br>マチセンター長<br><br>日本温泉気候物理医学会理<br>事長 | 平成元年より18年の永きにわたり、日本温泉気候物理医学会に在籍し、温泉・気候・物理医学の発展に努めた。<br>特に、平成元年以降、同学会会員として、生体への物理学的刺激に対する反応と疾病との関係の研究を続け、平成19年度には環境省の温泉利用に関する掲示内容等についての医学的検討調査の研究代表者として調査研究に携わり、温泉の適正利用の推進に大きく貢献した。  |
| ソウマ ツネオ<br>相馬 恒雄   | 72 | 富山県環境審議会委員<br><br>同温泉専門部会部会長  | 平成2年から富山県環境審議会温泉専門部会専門員、部会長として17年以上にわたり富山県の温泉の保護及び適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に大きく貢献した。<br>特に、同専門部会においては鉱物学に関する知識を活かし、審議の中心的な役割を果たし、平成16年からは部会長として審議の取りまとめに尽力した。<br>また、「富山県の温泉」の編集や富山県内の可燃性ガスの存在の推定される地域分布図の作成などに、専門知識に基づき適切な助言を行った。 |
| タナカ カツシゲ<br>田中 一誠  | 74 | 千葉県環境審議会委員  | 平成3年から千葉県環境審議会温泉部会委員として16年以上にわたり千葉県の温泉の保護及び適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に大きく貢献した。<br>特に、「千葉県温泉指導要綱」の策定、距離や揚湯量等の基準を定めた指導指針の策定、「千葉県温泉法施行細則」における温泉ゆう出に係る土地掘削時の天然ガスの安全対策に関する諸規定の追加整備に尽力した。  |
| ナカジマ ワ イチ<br>中島 和一 | 77 | 兵庫県環境審議会温泉部会<br>特別委員<br><br>神戸大学名誉教授                                | 平成4年から兵庫県環境審議会温泉部会特別委員として15年以上にわたり兵庫県の温泉の保護及び適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に大きく貢献した。<br>また、兵庫県の温泉保護調査検討事業(平成5～8年度)に中心構成員として参加し、温泉の保護に尽力した。<br>さらに、平成8年度には掘削許可申請の添付書類の様式の作成に関わり温泉行政の推進に貢献した。  |
| ネジ フミヒロ<br>根津 文博   | 63 | (社)日本温泉協会副会長<br><br>北海道温泉協会理事<br><br>(株)御園ホテル代表取締役                  | (社)日本温泉協会において、平成元年から19年にわたり理事、副会長として、地元北海道地区の会員の増強に尽力するとともに、温泉の保護と適正利用に関する広報普及活動等の推進に努めることにより全国組織としての活動の充実に貢献し、温泉資源の保護と利用の適正化に貢献した。<br>また、北海道においては、北海道温泉協会理事等の要職にあつて、温泉地の地域振興の基本は温泉資源の保護にあることを訴え活動し、温泉資源の保護に貢献した。           |
| フジ リオ<br>藤 則雄      | 76 | 石川県環境審議会温泉部会<br>部会長   | 平成元年から18年以上にわたり石川県環境審議会温泉部会委員、部会長として石川県の温泉の保護と適正利用に尽力し、温泉行政の推進に大きく貢献した。<br>特に、同部会においては、地質学的視点からの資料の作成・提供、助言を行うとともに、平成15年からは部会長を務め、意見の取りまとめ等に尽力し、部会の審議に大いに貢献した。  |

| 氏名   | 年齢 | 役職等                                     | 功績概要   |
|--|----|---|--|
| モリ ヨシノブ<br>森 芳信                                  | 67 | 福島県自然環境保全審議会<br>温泉部会部会長<br><br>日本大学名誉教授 | 平成4年から福島県自然環境保全審議会温泉部会委員、部会長として15年以上にわたり福島県の温泉の保護及び適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に大きく貢献した。<br>特に、同部会においては、地盤工学、防災工学の専門家として、福島県の温泉保護利用対策要綱の改定等にも尽力し、また、平成19年2月からは同部会会長として、中心的な役割を担い、審議の取りまとめに尽力した。 |
| ヨシイケ ユウゾウ<br>吉池 雄藏                               | 64 | 東邦大学准教授<br><br>(財)中央温泉研究所理事             | 昭和42年より約41年にわたり東邦大学理学部に勤務し、玉川温泉における酸性温泉水と岩石の反応及び酸性温泉水の化学成分の研究、特にその変化の要因について研究を行い、その成分の由来等を明らかにした。<br>これらの研究成果は温泉法に基づく事務を行うに当たり貴重なデータとなっており、温泉資源の保護と適正利用に大きく貢献した。                       |
| アサムシオンセンジギョウ<br>浅虫温泉事業<br>キョウドウクミアイ<br>協同組合      | —  | 理事長 佐々木真                                | 温泉の集中管理システムを全国に先駆けて採用するとともに、情報機関誌の発行を行うなど、青森県浅虫地域の温泉の保護と適正利用に貢献した。<br>また、温泉集中管理団体の全国組織を提案し、全国温泉集中管理団体協議会の設立に尽力した。  |
| イズナガオカオンセンジギョウ<br>伊豆長岡温泉<br>ウキョウドウクミアイ<br>事業協同組合 | —  | 代表理事 牧野榮夫                               | 掘削井戸の増加等により水位の低下した伊豆長岡温泉において、資源保護のために伊豆長岡温泉街全域に均一な温泉を供給する集中管理施設を建設し、また温泉資源の保護と安定供給のために資源監視システムと源泉制御装置を設置するなど温泉の資源保護と適正利用に大きく寄与した。  |
| クマモトケン オンセンキョウ<br>熊本県温泉協<br>ウカイ<br>会             | —  | 会長 齊藤勝彌                                 | セミナー(平成7年の設立以降毎年開催)、温泉適正利用パンフレットの作成等、温泉の保護及びその適正利用に関する普及啓発を行うとともに、温泉再分析促進事業、温泉水位観測促進事業、利用者への適切な情報提供のための揭示証の作成、県の温泉審議案件の現地立会や意見具申するなど熊本県の温泉行政の推進に貢献した。                                  |